

2007 FCJ シリーズ第 15-16 戦

■ 10月18日 フリー走行1日目 DRY

今シーズンも残り2イベント4レースと残り少なくなり、来年に繋げる為にも、結果を残さなければなりません。今回レースが行われる「ツインリンク茂木」は今シーズン2回目の開催となり、前回の反省点である「ブレーキングでの突っ込みすぎ」を意識して挑みました。そんな中始まったフリー走行では、走り始めて徐々にタイムを上げていきます。

しかし、少しずつタイムは上げていくのですが、トップとの差は中々縮まりません。自分の走り方的にフロントタイヤを先に傷めてしまう傾向にあるので、アンダーステアが酷く、どうしても立ち上がりで離されてしまいます。それでもこの日最後のラップで自己ベストを更新して、トップから 0.7秒落ちのタイムを記録しました。

けれど、それでも順位的には19番手と厳しいもので、この日のデータをチェックして金曜日の走行に挑みます。

■ 10月19日 フリー走行2日目 DRY

前日のテスト結果から突っ込みすぎのクセは直っていたのですが、逆に立ち上がりを意識するあまりブレーキングポイントが早く、そこでタイム差が出来ていたのがわかりました。それとは別に、この日は朝から NEW タイヤでの走行となるので、前日までのアンダーステアが消えることも予測され、立ち上がり側でもっと稼げるように意識して走りました。

走り始めて、どんどん自己ベストを更新します。しかし、トップとの差は中々縮まりません。セクターごとに見ても、どのセクターでも平均的に少しずつ遅れていて、自分の課題である「1周まとめる」というところで出来ず、中々タイムを出せませんでした。午後に入ってもその差は中々縮めることが出来ず、結局この日も19番手という結果で終わってしまいました。

■ 10月20日 公式予選 DRY

第15戦 22番手

この日も前日同様、完璧な DRY コンディションの中、第15戦の公式予選が行われました。

走り始めて計測2周目には1' 55. 251というタイムを出し、続けて自己ベストを更新しながらアタックを続けます。しかし前方でコースアウトしたマシンがあり、その車が自分のすぐ前でコースに復帰したため、その周はアタックを諦め、クールラップを挟んで再度アタックを開始します。しかしタイムを更新することは出来ず、落ち着くことも含め、再度クールラップを挟んでラストアタックをかけます。その結果少しではありますが、タイムを縮めることができ、1' 54. 秒台に入れることが出来ました。けれど結果的にトップから0. 9秒落ちの22番手という順位で15戦の予選を終えました。この予選では思ったように向きを変えることが出来ず、立ち上がり側のアクセル ON が遅くなってしまった感じが残り、次の予選に向け、タイヤの内圧を調整して、挑みました。

第16戦 20番手

この予選は計測1周目からアタックを開始して、毎周走る度に少しずつですが、タイムを縮めていきます。けれど今回は15分前に行われた第15戦の予選とは打って変り、一気にオーバーステアになってしまいました。これがタイヤの内圧を調整したことによるものだと思うのですが、自分が思っていたよりも大分大きく変わったので、少し戸惑いましたが、どうにかコントロールしてタイムを出します。けれど結果はまたしてもトップから1秒落ちの20番手と情けないものになってしまいました。このレースウィークはフリー走行から速い方の後ろについて、自分のイメージでは「こういう風に走ればいいのか」と言う感じがあったのですが、中々その通りにマシンをコントロールすることが出来ませんでした。予選後にデータをチェックして、自分の悪いところを確認したのですが、ブレーキングポイントが少しずつ早いと、早くアクセル ON する為に向きを変えるのですが、その時のブレーキの離し方が速いドライバーと違うことがわかりました。しかしこのことに関しては自分のずっと前からある課題なので、良かった時の操作などしっかり思い出し、イメージして走りたいと思います。

第15戦 決勝 17位 DRY

この日の午後から行われた第15戦の決勝は予選同様なコンディションの中、スタート進行が始まりました。スタートから少しでも順位を上げるようにしっかりタイヤを温めながらフォーメーションを終え、シグナルに集中します。

そしてシグナルレッド・消灯・スタート！

スタート直前にストールしたマシンがあり、そっちに意識がいきってしまい、出遅れるマシンが大勢いる中、自分は完璧なスタートで1コーナーに向かいます。このツインリンク茂木は1コーナーが右コーナーな為、イン側に入ろうと思った自分は1番右側にマシンを振ります。しかし、そこはストールしたマシンを避けるマシンがいっぱいいた為、自分は行き場を失ってしまい、せつかくの加速だったのですが、アクセルを緩めるしかなくなってしまいました。するとそこに、ストールしたマシンに直前まで気付かなかったドライバーが急に進路変更をして、自分のマシンの真横に突っ込んできました。自分の右側はピットウォールギリギリだった為、避けるスペースは残っておらず、タイヤ同士が接触、僕は一瞬でアームやホイールが曲がってしまい、真っ直ぐも走れないような状況になってしまいました。しかし、それでもどうにかコントロールして、1コーナーで1台をパスします。けれどアームが曲がったマシンは各コーナーで違う挙動をするので、コントロールが難しく、逆に1台にパスされてしまいました。けれどその後の1周目の混乱で上手く1台を抜き返すことができ、19位で1周目を終えました。そこから先は前をパスするのは中々難しく、それどころか後ろからもドンドンプレッシャーをかけられます。けれどこのマシンの状態で1番ベストな走りが出るように、走行ラインなども考え、ミスなく走ることに集中します。その結果前のドライバーのコースアウトなどもあり、最終的に17位でチェッカーを受けることとなりました。

このレースはスタート直後のクラッシュで全ては決まったような気がします。いつもですが、そういうポジションからスタートしなければならない予選結果が全てだと実感しました。

この日はレース後のデータをしっかり見直し、マシンの状態とは別に、良くなったところ、まだ直ってないところなどしっかり確認して翌日のレースに備えました。

■ 10月21日 第16戦 決勝 DRY 24位

前日のレースで壊してしまった、マシンをメカニックの方にしっかり直していただき、自分としても、再度気を引き締めてレースに挑みました。昨日のマシンの状態でも良かったところもあるので、完璧なマシンで更に上を目指して走ります。

前日より早い時間からのスタートとなりましたが、路面温度、気温ともに高い状態のコンディションとなり、そこも考えてタイヤの内圧など調整します。しっかりタイヤを温めながら、グリッドに付き、シグナルに集中します。

シグナルレッド・消灯・スタート！

昨日のスタートをイメージして走ったのですが、この日はクラッチミートが早過ぎたことにより、少し失速してしまい、あまり順位が変わらないまま1コーナーへ入っていきま
す。続く2コーナーから3コーナーでのブレーキングで1台をパス、更に5コーナーの進入で1台のイン側に飛び込み、ならんだまま5コーナーを立ち上がろうとします。しかし、1周目のまだタイヤが温まっていない状況で無理をしてしまったため、その場でスピンしてしまいました。そのまますぐにコースに復帰したのですが、前との距離も大分空いてしまい、順位は1番後ろまで下げてしまいました。そこからは全力で前の選手に追い付くことに集中します。そして3周目の3コーナーで1台を、更に次の週の4コーナー立ち上がりを手く合わせて5コーナーでパス！コースアウトした選手もあり、順位は24位まで上げてきました。そこからは前の選手に追い付き、特に相手に追い付くコーナーを探ります。そして7周目にはヘアピン立ち上がりでしっかり合わせてバックストレートエンドでインを刺し、23位まで順位を上げます。そこからは自分のペースも上がりまた前の選手に追い付きます。前日に比べるとマシンの状態もかなり良かったのですが、全体的にリヤのグリップが低くなり、オーバーステアが段々強くなってきました。それでも前の選手の隙を突いて仕掛けるのですが、中々順位を上げることが出来なくなりました。けれど周りの選手のミスなどもあり13周目には20位まで順位を上げることが出来ました。そして、前の選手をパス出来ずに完璧に相手のペースになっていたのですが、続く14周目その選手がミスをする。そのチャンスを見逃すわけには行かず、5コーナーのブレーキングでイン側にマシンを滑り込ませます。しかし次の瞬間4輪ともロックさせてしまい、痛恨のグラベルストップ。オフィシャルの方に助けてはもらったのですが、1周遅れでコースに復帰します。そこからは完璧な単独走行になってしまったので、少しでもタイムを縮めようと、集中し直します。そして少しづつタイムを縮め、ファイナルラップには自己ベストから0.4秒ほど更新することができ、最終的に24位でチェッカーとなりました。

今回のレースウィークは今の自分の悪いところが全部出た上に、いいところは何もと言ってもおかしくないくらい、出せなかったレースでした。残りレースも少なくなってきて、結果に繋げようとする気持ちは凄くあったのですが、それが違う方向に力が入ってしまい、空回りばかりしていました。

今シーズンも残すところは後1イベントですが、最終戦の鈴鹿は僕が1番走りこんでいるサーキットでもあります。今年一年、今までは結果に繋げる事は出来なかったですが、最終戦だけは絶対に結果に繋がります。これも毎回言っていることなのですが、今シーズンを締めくくる上で、絶対に後悔しないようなレースにします。気持ちの面では今回のことから最終戦にしっかり切り替え、悪かったところは反省して最終戦に挑みますので、引き続き、ご指導、応援の方よろしく願います。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹